

## 【庭山先生助言】

### 1. PBS の持続性に関する前提

「持続性は日本でも海外でも非常に難しい。特に日本は人事異動が定期的にあるため、継続が困難。」

「欧米でも PBS の持続性は一大研究分野。日本ではさらに難易度が高い。」

### 2. 継続のための重要ポイント（3 つ＋ $\alpha$ ）

#### ① 推進チームの組織化

「学校内で PBS 推進チームが組織として位置づけられ、定期的なミーティングを行うことが重要。」

「推進リーダーが異動する場合、次の担当者を育成する二年計画のバトンタッチが望ましい。」

#### ② データ活用

「成果をデータで示すことが持続性に直結。新任者や管理職に『うちの学校はこう変わった』と説明できる。」

「実行度チェックリストやアンケート結果を活用し、変化を見える化する。」

#### ③ 学級レベルでの PBS 実践

「学校全体のキャンペーンだけでなく、各教室で PBS 的な取り組みがあることが重要。」

「声かけレベルでもよいが、学級単位での実践が継続性を支える。」

#### ＋ $\alpha$ 新転任者への早期研修

「4 月初旬に短時間でも PBS 研修を入れることが重要。新任者が置いてけぼりにならないように。」

「15 分程度でもよいので、年度初めの説明会に PBS を組み込む。」

### 3. 実践校での課題と事例

「新任者が PBS を理解せず、従来型の指導をすると学級が荒れ、先生が自信を失うケースがある。」

「関西の事例では、4 月に研修を入れることでこうした問題を防げた。」

### 4. 推進のための工夫

「年間計画に PBS を組み込むには、教務主任との連携が重要。」

「大阪では教務主任が PBS 推進担当になると学校全体の計画がスムーズに進む。」

## 5. データと予算の話

「全国学力調査のアンケート項目（先生に褒められるか等）は PBS の成果を示す指標として有効。」

「予算は校内で年間計画に組み込むべき。シールや掲示物の費用を事前に試算し、翌年度から校内予算化する。」

「PTA や自治体の補助金を活用する事例もある。」

### <庭山先生のまとめ>

「持続性は難しいが、推進チーム・データ活用・学級レベル実践・新任者研修が鍵。」

「外部サポートは完全実装後も半年に一度程度あるとよい。」

「形骸化防止のため、マトリックス更新やキャンペーンの見直しを定期的に。」

### 【その他の発言等】

#### 1. 一年間の振り返りと次年度へのつなげ方

司会（特別支援・相談課）

「一年間の振り返りをどうするか、次年度にどうつなげるかを話したい。」

「振り返りの時期や方法について、各校の案を教えてほしい。」

樋川先生（池田支援美馬）

「昨年度は 2 ～ 3 月の最後のワーキングで振り返りを実施。今年も同様になる見込み。」

「中学校は個別対応になりそう。全体で集まる時間は難しい。」

「次年度計画を年度末に入れておかないと厳しい。」

久米先生（国府支援）

「片上小は年度末に研修時間を取りたいが、日程は未定。」

「南部中は全体振り返りは難しく、マンツーマンで対応する予定。」

中川先生（ひのみね支援）

「柴田小は昨年度 2 月に委員会ごとに良いところを出し合う研修を実施。今年も短時間で同様の振り返りを予定。」

「小松島中央中は全職員での振り返りは難しく、生徒会中心で検討中。」

#### 2. 各校の現状と課題

久米先生

「片上小は実践が進んでおり、来年度は今年度の良かった部分を継続する方針。」

「子どもたちが『ふわふわ言葉』を再度やりたいと提案、若手教員が即実行。」

「人事異動で推進リーダーや教頭が変わることへの不安あり。」

中川先生

「柴田小はキャンペーンを絞り、継続可能な形に改善。」

「小松島中央中は校長の影響力が大きく、異動時の継続性が課題。」

### 3. モデル事業後の支援体制

司会

「モデル地域で PBS を続けるため、困った時に誰が支援に入るか検討中。」

「指導主事や P コンが他地域にも対応できる体制を考えている。」

久米先生

「モデル事業終了後、推進リーダーが研修を担うのは負担感がある。」

「オンラインで新任者向け説明をする仕組みがあるとよい。」

### 4. 予算課題

久米先生

「シールや教材費など、現実的に予算が必要。モデル事業後の継続に不安。」

「予算があれば学校が取り組みやすい。」

司会

「県として予算措置は現状なし。校内で年間計画に予算を組み込む工夫が必要。」

### 5. PBS アワード応募状況

樋川先生

「ワーキング発表後、アワード応募に消極的。締切が年内で負担感あり。」

「応募はしてほしいが、まとめ方に悩んでいる。」

久米先生

「片上小は応募意欲あり。昨年度はほぼ自分が作成。」

司会

「負担軽減のため、簡単なメモを P コンが整理→ブラッシュアップで応募可能に。」

### 6. 今後の予定

司会より案内

12 月 16 日：P コン養成研修（13:30 ～ 16:00）

12 月 9 日・1 月 6 日：PBS パワーアップ講座（オンライン）

1 月 6 日は徳島市モデル校の事例発表を予定

1 月 29 日：次回 P コンミーティング